

ミステリ読書案内

2023. 11. 8 発行元

第527号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

石田衣良「神の呪われた子」

9月に文藝春秋から石田衣良の『池袋ウエストゲートパーク』シリーズの19冊目に当たる『神の呪われた子』が出た。相変わらず世の中の情勢をうまく作品の中に取り入れる手法が巧みで、感心させられる。

《石田衣良・IWGPシリーズ》

1. 池袋ウエストゲートパーク
2. 少年計数機
3. 電子の星
4. 骨音
5. 反自殺クラブ
6. 非正規レジスタンス
7. 灰色のピーターパン
8. Gボーイズ冬戦争
9. ドラゴンティアーズ龍涙
10. PRIDEプライド
11. 憎悪のパレード
12. 裏切りのホワイトカード
13. 西一番街ブラックバイト
14. 七つの試練
15. 絶望スクール
16. 獣たちのコロシム
17. 炎上フェニックス
18. ペットショップ無惨
19. 神の呪われた子
20. 赤・黒 (外伝)
21. キング誕生 (外伝)

第三話は「闇バイト」がテーマ

第三話の『フェイスタトゥーの男』は「闇バイト」が取り上げられている。ここ二、三年、ネットで勧誘された若者が犯罪の実行役として駆り出されている事件が目立つようになってきた。「高額報酬」が餌のように感じられるようだが、世の中そう簡単に多額のお金が入ることなどありえないのだ。

マコトの高校時代の同級生・徳永高志が経営している古着屋に新しいバイトが入った。そのジュンペイが連続強盗団の運転手兼監視役として無理に引き込まれたようなのだ…。人の好い若者を救い出そうとマコトとタカシは裏に隠れている首領の方をあぶり出そうと行動を展開していく…。

第四話は「宗教二世」の問題

第四話『神の呪われた子』も今世の中で大きな問題として取り上げられている「宗教二世」がテーマ。学校教員として長年子どもたちを

見てきた私もいろいろと感じてきた部分である。たとえ幼い子どもたちであっても、もちろん成人近くになった子どもたちであっても、本人の気持ちや考えを尊重してほしいと切に望むものである。

梅雨の時期に傘をさして家々を回る母娘。パンフレットを差し出して新興宗教らしきものの勧誘の話をする。マコトの店にもやってくる。数日後、街角で娘の方が一人でパンフレット配りをしていた。マコトが声をかけた時、気を失って倒れてしまった。聞くとまともな食事さえ与えられていないらしい。マコトは地区の子ども食堂へ連れて行って…。娘のルカは高校生で、母親の信仰にはとても付いていけないと感じていた。そんなルカを救い出すためにはどんな方法があるのか…。

世の中の弱い立場の人を助けるには…

第四話には子ども食堂を運営する関本亜津という三十歳代の女性も登場してくる。貧困にあえぐ家庭の子どもたちを助ける活動をして

る。彼女自身が苦しい時期を過ごしてきたので、もう必死である。支援の資金も少ない中、奮闘している。マコトもタカシもそんな人たちの助けになればと具体策を練っていく。「宗教二世」を切り離すことができるのか…。

このIWGPシリーズは現在の社会を知るためのぴったりの作品。多くの人に読んでもらいたい。

青柳碧人「浜村渚の計算ノート10さつめ」

9月に講談社文庫から

書下ろしで出た本。シリーズ12冊目になる。(短編集としては10冊目。長編が2冊ある。) 四年ぶりの新刊である。数学を題材として取り上げているため、作者は巻を追うごとに何をテーマにするかで悩むと思うのだ。あまりに専門的になり過ぎると読者によっては理解の範囲を越えてしまうから…。かつて理科系の教員をしていた私にとっても難解に思えるものもたくさんある。本書の中に出てくるインド出身の数学者ラマヌジャンの定理などは私には理解できない。数学もここまで理解できたなら楽しいのだろうなあ…。

四話収録の連作短編集。警視庁の黒い三角定規特別対策室本部の仲間たちと中学生・浜村渚が数学テロ集団「黒い三角定規」からの挑戦を受けて立つという流れ。学校から数学をはじめとする理科系科目が全て排除されてしまった世の中が特殊過ぎる。第一話の『九章めの真実』は、黒い三角定規が千葉県柏市の図書館を占拠し、館長を人質に取って浜村たちに難問を突きつけてきた事件。新任の館長が理科科目の図書を焼き捨てたこと問題視したテロである。解かなければならない問題は中国の数学所『九章算術』に登場してくるもの。土地の面積の計算から始まって方程式へと進んでいく。それをすらすらと解いていくのが浜村渚。